

床貼り替えチェックポイント

床を改修する場合、既存床の種類や状況、また剥がし貼り替えか、既存床に重ね貼りするのかによって工法を選ぶことが大切です。改装にあたって必要な確認事項をまとめた「床貼り替えチェックポイント」と、あらゆる既存床のケースを考慮した「下地づくり工法」をマニュアル化し、より確かでスムーズな改修のために役立てています。

A) 既存床の確認

1. 既存床材 種類 製造メーカー・商品名
形状 寸法・厚さ
現状 破損・摩滅・メンテナンス
2. 既存床材に使用された接着剤
種類 エマルション形・溶剤形ほか
色調 (接着剤層)
接着強さ(“死にのり”の状態になっていないか)
3. 既存下地 種類 塗床・木造下地ほか
下地の強度

B) 下地づくり

1. 剥がし貼り(既存床材を剥がす場合)
古い接着剤の除去
下地補修の有無・程度
廃材処理の方法
2. 重ね貼り(既存床材を残す場合)
床材の状態(破損、表面の状態など)
捨て貼り、補修など
施工後の床面の高さ

C) 貼り替えに使用する床材料

1. 床材の選定 床材の選定
選定床材と既存床材の相性(重ね貼り)
選定床材と下地との相性
2. 接着剤の選定 直土間・水場まわり・結露箇所への配慮
施工後長く放置されないか
用途変更はないかなど

D) 施工現場の環境

1. 什器関係 什器占有率の調査
移動の有無と方法
2. 電話・電線関係 撤去、復元の有無
3. 建物内の設備使用 必要性の有無(エレベーター、電気、駐車場など)
空調・火災報知機の確認
4. 作業日時 作業曜日・時間帯
5. 戸回り開閉の確認 施工後の床面高さ
6. 材料の搬入と保管 搬入方法・保管場所
7. 養生 施工前の養生
備品、柱、壁ほか
階段、エレベーターほか

E) 協議事項

1. 騒音発生・ほこり・煙の発生
2. 接着剤の臭い
3. 通行制限・禁止
4. 備品(美術・骨董品、重要書類など)の事前移動とその保安
5. 集合住宅・事務所などの事前連絡の徹底
6. 集合住宅・事務所などへの事後の挨拶

床貼り替えチェックポイント

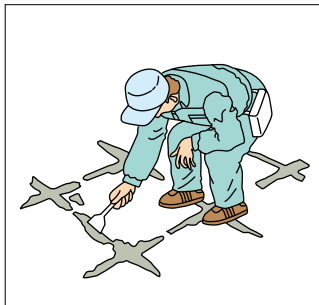
床下地の種類と下地づくり工法

既存床を剥がして貼り替える工法

ビニル系床材 仕上げの場合

(アスファルト系接着剤残存下地)

クシ山や部分的なタマリに注意し、ケレン作業で残っている接着剤を取り除くのがポイント。



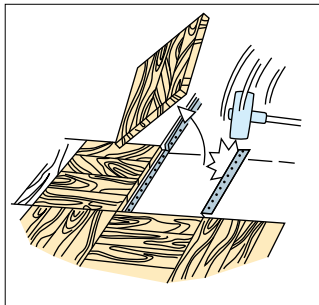
塗り床仕上げの場合 (ウレタン系)

下地に残っていると処理が大変難しいので、床研磨機を用いて完全に除去することが望ましい。



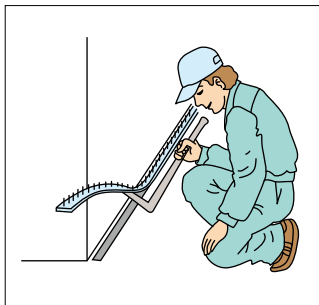
フローリング仕上げの場合

残ったフローリングブロックを撤去、留め金具も除去するか完全につぶし、平滑にする。接地床の場合は防湿層などの有無を確認する。



カーペット仕上げの場合

不要なグリッパーをバールなどで撤去。こわれた下地はフラッターで充填処理する。

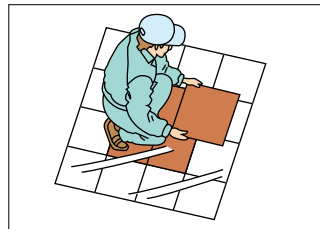


既存床に重ね貼りをする工法

ビニル系床材を 下地とする場合

(ビニル床タイル/シート)

施工に制約を受けないカーペットタイルを使用するのが、ポイント。既存の床の上にそのまま敷き込み可能。ただし、浮上りや凹み跡・収縮・ふくれなどの欠陥がある場合には、同一材で補修し、硬ねりフラッターなどで充填処理する。



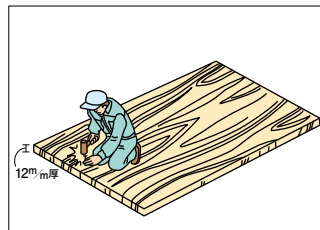
塗り床を下地とする場合 (セメント系)

部分的な浮き、欠落、クラックなどを、ケレン作業やフラッター、パテなどで完全に補修。



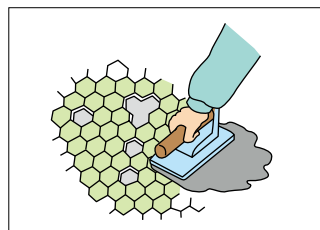
フローリングを 下地とする場合

既存のフローリングの反り、継ぎ目などの影響を受けないよう、12mm以上の耐水合板を上から打ちつけ下地とする。ただし、下地に湿気がある場合は、適用できない。



石材・セラミックタイルなど を下地とする場合

フラッター-LCを打設し平滑にする。厚み等の関係で使用できない場合は、フラッタープライマーを塗布後、フラッター硬ねりを1~2回塗布することがポイント。目地部分にフラッター硬ねりを塗布し、その後フラッター標準ねりを二回塗布する。



アスファルトモルタルを 下地とする場合

浮きが部分的な場合は、電動ドリルで孔をあけ、グラウト材を注入。また、表面をワイヤーブラシなどで洗浄・荒しを行い、フラッターを全面塗布する。



古いコンクリート・モルタル 下地の場合

下地の不陸が大きい場合は、フラッター-LCで全面補修を行う。

